

安全・安心な畜産物生産技術の開発

【106(118)百万円】

対策のポイント

安全な畜産物生産のため、家畜のドラッグデリバリーシステム等を開発すること等により、抗菌性飼料添加物や動物用医薬品の使用を低減する家畜飼養管理システムを構築します。

(ドラッグデリバリーシステムとは)

微量の薬剤を特定部位に効率的・選択的に作用発現させるシステム。薬物送達システムとも呼ばれます。

政策目標

抗生物質・動物用医薬品の依存を著しく低減した家畜の飼養管理により、国民の食の安全・安心に貢献

< 内容 >

1. 抗菌性飼料添加物に頼らない畜産物生産技術の開発

牛、豚、鶏の主要家畜について、抗菌性飼料添加物と代替可能な、家畜の免疫機能を活性化させる飼料及び飼料添加物を開発するとともに、その利用技術を確立します。

2. 動物用医薬品使用量低減のための畜産物生産技術の開発

減投薬等を可能とするドラッグデリバリーシステムの利用技術の開発

動物用医薬品の使用低減のため、微量の薬剤を特定部位に効率的・選択的に作用発現させるドラッグデリバリーシステム技術を開発します。

乳牛の低ピーク・高持続型泌乳管理システムの構築

泌乳ピーク時の疾病の発生が多い高泌乳牛管理システムを見直し、低ピーク・高持続型泌乳管理システムを構築することにより、動物用医薬品使用量の低減化を図ります。

3. 減投薬飼養管理システムの経営評価

減投薬システムを導入した場合の家畜の成長速度や事故率の変化、抗菌性飼料添加物・動物用医薬品に関する経費削減等が畜産経営に及ぼす評価を行います。

< 実施主体等 >

実施主体 独立行政法人、都道府県、大学、民間等

実施期間 平成17年度～平成19年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発課 (03-3501-0966(直))]

